

「マッハ車検 GR Supra GT4 EVO2」 粘りの走りでクラス 5 位入賞



Team Noah「マッハ車検 GR Supra GT4 EVO2」は、10 月 25～26 日に岡山国際サーキットで開催された ENEOS スーパー耐久シリーズ 2025 第 6 戦「スーパー耐久レース in 岡山」に参戦。クラス 7 位のスタートから一旦 11 位へ順位を落とすも粘りの走りでクラス 5 位まで追いつき、富士 24 時間以来となる今季 2 回目の入賞を果たした。

福岡に本拠を置く Team Noah(代表:清瀧雄二)は、“九州に元気を！九州のモータースポーツにもっとワクワクを！”を合言葉に九州のレーシングチームとして 2018 年より S 耐久に参戦を開始。2021～22 年はホンダ・シビック TCR で ST-TCR クラスチャンピオンを獲得した。2023 年は車両を GR Supra GT4 EVO にスイッチし、激戦区クラスであり国際的にも人気を集める GT4 車両による ST-Z クラスへクラス替えをした。昨季は GR Supra GT4 EVO2 を投入。今回は第 2 戦鈴鹿以来となる下垣和也が A ドライバーを担当し、B ドライバーに富田自然(あるが)、C ドライバーに大分出身の森田真心(こころ)と 3 人で 3 時間レースに臨んだ。

今回の 3 時間耐久レースに出走した車両は、全 9 クラス計 56 台。これを Gr.1 と Gr.2 の 2 グループに分け、別個に 3 時間レースを開催する。Gr.1 は ST-X、Z、TCR、1、そして Q クラスの 1 台を加えた 25 台からなる。激戦の ST-Z クラスには、GR スーブラ、Z、ボルシェ・ケイマン、メルセデス AMG、アウディ R8 と国内外の GT4 マシン 5 車種計 11 台がエントリーした。A、B ドライバー 2 名のベストタイム合算で争う公式予選は曇天の 25 日 13 時 40 分にスタート。下垣が 7 位、富田が 8 位でタイム合算の結果クラス 7 位/総合 16 位だった。また森田も難なく基準タイムをクリアした。

26 日は朝から雨となったが、Gr.1 の決勝が行われる午後には天候が回復し曇り時々晴れ、ほぼドライコンディションとなった路面の 13 時 32 分に 3 時間レースはスタートした。ステアリングを握るのはジェントルマンドライバーの下垣で、同じクラスの他の 10 チームはエース級の B ドライバーもしくは C ドライバーを起用しており、オープニングラップでクラス 11 位へポジションダウンとなった。しかし下垣は粘り強く走り他チームが早目のドライバー交代を済ませたこともあり、A ドライバーの義務周回時間 60 分をクリアし 7 位まで順位を上げた 34 周でピットイン。ここで森田に交代した。

森田は短いスティントを担当しエースの富田につなぐ作戦。森田はクラス 11 位でコースに戻るとステディな走り続け、スタートから 1 時間 40 分が経過した 54 周でピットインし、ここで富田に交代した。その数分後から雨がポツポツ落ちて来てやがて大粒に。すぐに雨は上がったが、アクシデントやマシントラブルでライバル勢が脱落していく中、富田は 76 周目には 9 位、83 周目には 7 位へ順位を上げていた。さらに終盤ライバル車にトラブルが発生し、富田は 91 周目には 5 位まで順位を上げるようになった。圧倒的な速さはなかったものの、ミスなくトラブルなく 105 周で 5 位のチェッカーを受け、粘りの走りで今季 2 回目の入賞を果たすことができた。

次のレースは 11 月 15～16 日に富士スピードウェイで行われる第 7 戦(最終戦)4 時間レース。今季最高位を目指す。

下垣和也「周りはほとんどがプロドライバーでしたから、自分のアベレージを上げて走り次のドライバーにつなごうと心掛けました。岡山は走り慣れているコースですが難しい。メカニックを含めスタッフさんたちが一生懸命やってくれたのでこの結果につながったのだと思います。次の富士も乗りますがスーブラにもようやく慣れて来たので、伸び代に期待したいと思います」

富田自然「最後は追いつき上げることができませんでした。予選もセッティングの問題ではなく、路温やタイヤのアジャストなどうまくまとめられなかったことが不満です。今週は悩んで勉強になりました。最後は途中雨になりライバルを抜いていったバトルは楽しかったですね。次は今年の集大成だし、24 時間も調子良かったので優勝を目指して頑張りたいと思います」

森田真心「元々作戦的に短いスティントを担当することになっていましたが、もう少し乗りたいかったです。ただもうひとつペースが足りなくて、それが表彰台を逃した要因のひとつかなとも思いますし、チームに申し訳ない気持ちです。最後まで接触やトラブルもなく走り切れたことは良かったと思います。最終戦はより上位を目指して頑張りたいと思います」